

様式 3（第 5 条関係）

平成 19 年 2 月 15 日

由利本荘市長 柳 田 弘 様

由利本荘市本荘地域協議会長 細 谷 文 夫

意 見 書

本荘地域協議会において、下記事項について審議しましたので、「由利本荘市地域自治区の設置等に関する条例」第 8 条第 2 項の規定により、別添のとおり意見書を提出します。

記

1. 由利本荘市観光振興計画について
2. 毎年度(平成 19 年度)の事業計画について

意見書

本荘地域協議会

事 項	1. 由利本荘市観光振興計画について
	意 見 内 容
	①総合発展計画にある交流ゾーン形成のうち、「歴史芸術文化体験交流」、「自然体験・保養交流」及び「産学官民交流」の各ゾーンがなくなり、当計画では「田園生活交流ゾーン」となっている。総合発展計画の観光関連施策に関わる内容であることから、両者を整合させるべきである。 ②計画中に「花いっぱい運動の推進」とあるが、合併以降、緑化推進委員会(事務局：旧本荘市農林水産課)からの助成金はなくなっている。市からの支援がない中での「推進」の表記はこれでよいか検討が必要である。 ③現在は、鳥海山観光地やイベント会場などには大型バスかマイカーでしか行けない状況であるが、そういう交通手段を持たない人でもアクセスできるような施策(矢島駅からの移動に係る委託事業等)を、より具体的に表記していただきたい。 ④76ページの「特産品と観光の連携」の中に、米や酒などの一部の物産については触れているが、新規開発も含め既存の特産品(民芸品・工芸品など)についても表記するべきである。 ⑤観光客には美しい自然などを見ていただきたいし、地元のホテルなども賑わってほしいものであるが、マイカーでの来訪者が増えて排気ガスなどによる自然破壊が起きるのは困るので、自然環境に配慮した交通手段を検討・計画していただきたい。 ⑥60ページに「誘客ターゲットの考え方」が書かれているが、地方分権の時代にあっては「観光」は地方都市の生命線であることから、そのターゲットを期待が持てるどころだけに求めるのでは、「現状に甘んじている。」と捉えられかねないし、観光振興計画としては攻め方が弱いのではないかと考える。 また、これまで、1市7町が観光振興・開発に取り組んできているが、合併を転機として鳥海山という一つの大きなシンボルを基に、今まではできなかった特徴ある振興策を一体となって展開・打ち出していきたい。 ⑦伊勢志摩など一大観光地であってさえも観光客は減少しているが、そこでは「バリアフリーの町世界一を目指す」ことにより(観光客ではないが視察・研修などで)人を呼び込んでいる。鳥海山だけでは足りない、魅力ある民間事業が参入しないという現状認識は正しいかも知れないが、そこにあるものの魅力だけでなく、そのまちの特徴を売り出していくなど、発想を転換することも必要である。 ⑧自然保護や環境ということが、これから大事な論点になっていくと予想される。鳥海山から由利原高原、子吉川から日本海までが1市の中で一体となっていることから、自然保護や環境をテーマにして、他に先駆けて「環境都市」を目指していくという考え方も必要ではないか。時間はかかるが、そのような売り出し方を強く打ち出すべきと考える。 ⑨由利本荘市は鳥海山を中心とした観光開発が中心になるであろうが、「赤田の大仏」、「赤田の大滝」、「石沢峡」など既存の観光資源も忘れてはならず、これらへのアクセスについても、観光道路として系統的に計画・整備をすることが重要である。各地域にある観光資源を点とするならば、それを結ぶ道路が線であり、広域的な視点で観光振興を図るのであれば、点から線へ、そして面につながる施策が欲しい。

事 項	2. 毎年度(平成19年度)の事業計画について
-----	-------------------------

意 見 内 容
① 少子化対策として、昨年ファミリーサポートセンターが発足して大変良かったと感じているところであるが、一方、以前から「ファミリーサポートグループ」として自主的に活動していた組織が、同センター事業の開始と同時にその枠組みに吸収されるような形になってしまい、構成員の方々のやる気が削がれるような状況にもなっている。今後は、事前に調整・連携を取り、既存グループとの協働が図られるようにしていただきたい。 ② 放課後児童対策事業としての「キッズピットイン」の果たしてきた役割は大きなものがある。来年度に向けた国の施策の関係から、現時点では実施するかどうか、また、どのように実施していくのかも不明であるが、多くの子ども達が毎日利用する重要な事業であることから、市の方針を明確化して、活動者に対する早い段階での周知方をお願いしたい。 ③ 芋川桜つつみ河川緑地整備事業であるが、周辺には駐車場もなく、肝心の桜の育成状況がかなり悪いことから、観光振興の観点からも、その桜の適正な管理運営が図られるよう本腰を入れる必要がある。 ④ 第二庁舎移転・建設事業であるが、今後5年間のうちに300人規模で少なくなるとともに、他地域の支所庁舎に空き部屋が多くある現状を考えると、区画整理事業による移転・建設であるとしても、現庁舎の移転なども考慮に入れた総合的な視点での検討が必要と考える。 ⑤ お土産やお歳暮として、「ゆり根うどん」、「由利牛のみそ漬け」を活用しているが、大変評判がよい。「ゆり根うどん」は由利地域まで行かなくても手に入りやすくなっているが、「由利牛のみそ漬け」は子吉農協まで行かなくてはならず、生ものであるため時期を選ばなければならない状況である。ブランド化を進めてはいるが、観光振興として見た場合、生産体制、販路などが不十分であることから、平成18年2月に発足した「秋田由利牛振興協議会」の機能を活かした総合的な対策が望まれる。 ⑥ 「商工業の振興、地元商工業者への支援」については、地域商業振興事業(商店街近代化振興事業費補助金)として商業者への支援があるようだが、工業者への支援についても記載していただきたい。また、従来からの工業者への支援制度も含め充実していただきたい。